

# 柏崎市第二次健康増進計画中間評価報告書（案）

## 目次

### 第1章 計画の中間評価

1	中間評価にあたって	1
2	計画全体の評価	2
3	分野別の評価	
	（1）栄養・食生活	4
	（2）歯・口腔の健康	5
	（3）身体活動・運動	6
	（4）喫煙・飲酒	8
	（5）こころの健康	9
	（6）がん（悪性新生物）	10
	（7）循環器疾患・糖尿病	11
	（8）健康を支える地域づくり	13

### 第2章 市民の健康を取り巻く現状

1	市の概要	15
2	健康に関する概況（健康特性）	17

### 第3章 今後の取組

1	計画全体の方向性	22
2	分野別の取組	
	（1）栄養・食生活	22
	（2）歯・口腔の健康	24
	（3）身体活動・運動	25
	（4）喫煙・飲酒	27
	（5）こころの健康	28
	（6）がん（悪性新生物）	29
	（7）循環器疾患・糖尿病	31
	（8）健康を支える地域づくり	33
3	計画の進捗管理と評価	33



# 第1章 計画の中間評価

## 1 中間評価にあたって

平成28（2016）年3月、柏崎市第二次健康増進計画「健康みらい柏崎 21」を策定し、「健康寿命をのばそう」のスローガンのもと、「一人ひとりが健康づくりの実践者、みんなで支えあい、笑顔でつながるまちを目指します」を基本理念として掲げ、4つの基本方針、8分野にわたり、取組を推進してまいりました。

計画期間は、平成28（2016）年度から令和7（2025）年度の10年間とし、令和2（2020）年度を目途に、各目標の達成度、進捗状況などについて中間評価を行い、また、必要に応じて見直しを行うこととしています。

そこで、計画前半の取組を振り返り、健康づくりの課題を整理して、目標達成に向けた取組が行われるよう中間評価を行いました。評価結果をもとに、目標達成に向け、後半の取組を推進してまいります。

### スローガン ～健康寿命をのばそう！～

#### 【基本理念】

一人ひとりが健康づくりの実践者、みんなで支えあい、  
笑顔でつながるまちを目指します。

#### 基本理念を達成するための 計画の基本方針

- (1) 生涯にわたる健康づくり
- (2) いのちを大切に  
するところの健康づくり
- (3) 生活習慣病の  
発症予防と重症化  
予防
- (4) 健康を支え、  
守るための社会  
環境の整備

#### 四つの基本方針に基づく取組分野

- 栄養・食生活
- 歯・口腔の健康
- 身体活動・運動
- 喫煙・飲酒
- こころの健康
- がん  
(悪性新生物)
- 循環器疾患・  
糖尿病
- 健康を支える地域  
づくり

## 2 計画全体の評価

平成28（2016）、29（2017）年度は、市民や関係機関への計画の周知を重点に行いました。

まず、市民に対しては、平成28（2016）年度にライフステージに沿って個人・家庭で取り組むことをまとめた計画概要版を作成し、全世帯へ配布しました。また、「健康づくり標語」を募集し、優秀な作品を検診の案内封筒やはがき等に掲載し、健康づくりの意識を高めました。さらに、市民一人ひとりが健康づくりに取り組む意欲を持ち、行動に移すきっかけとなるよう、「かしわざき健康ポイント制度」を実施しました（平成27（2015）～令和元（2019）年度）。

次に、関係機関に対しては、直接出向き、計画の周知や計画推進への協力を働きかけました。また、健康づくりに携わっている関係組織・団体を対象として「健康づくりでつながる会」を開催し、講演会と関係団体の実践発表や計画推進に向けた意見交換を行いました。

平成30（2018）年度から令和2（2020）年度は、重点活動を「青壮年期への働きかけの強化」「糖尿病予防に向けた取組」とし、取り組みました。

青壮年期への働きかけの強化として、企業・事業所を対象とした出前講座「からだスッキリ講座」や、職場の仲間で健康づくりの目標を設定し取り組んでもらう「健康づくり宣言事業」に新たに取り組みました。

糖尿病予防に向けた取組として、既存の糖尿病予防の教室や相談会のほか、甘味飲料のとり過ぎ予防の啓発を重点とした健康講座を保育園の保護者などに実施しました。また、健康推進員や食生活改善推進員などの地区組織とも課題を共有し、糖尿病や食生活に関するアンケートの実施や予防のためのバランスのよい食事の啓発など、地域での取組を連携して行い、全世代を通じた働きかけをすすめています。

計画の進捗状況を確認し、評価するため、各分野に目標項目を設定しています。目標項目の（59項目）の達成状況を策定時と評価時の値を比較し、5段階の評価判定区分で評価しました。

### 評価判定区分

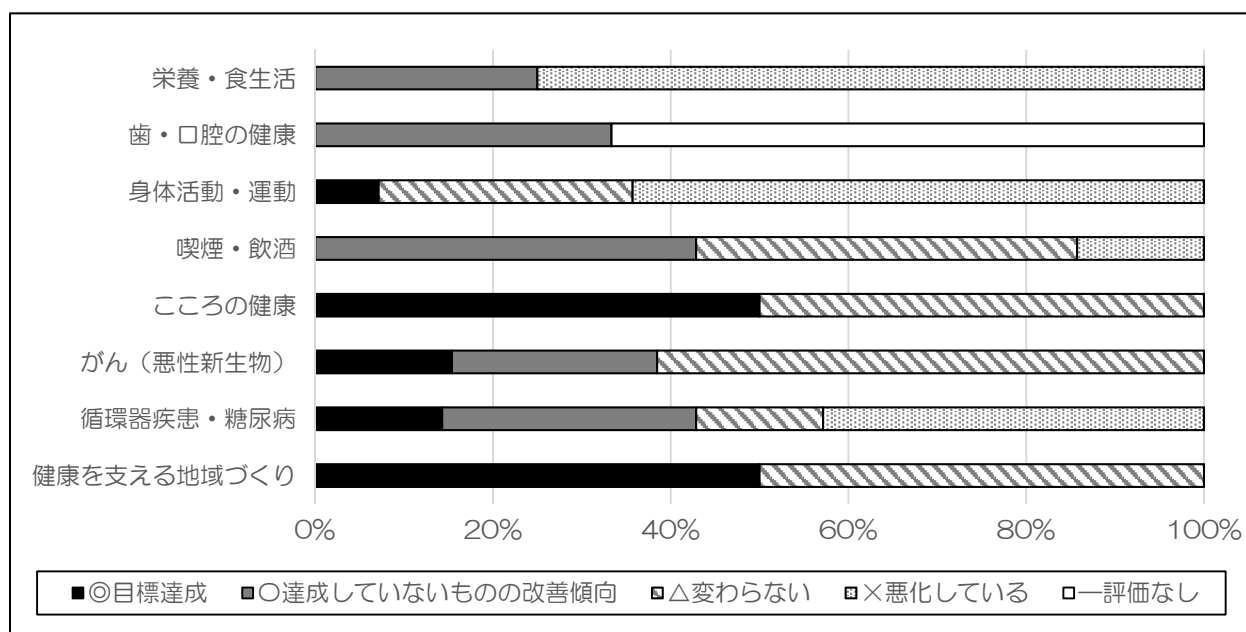
- ◎：目標達成
- ：目標に達成していないが改善傾向
- △：変わらない（目標に向けて推移しているが、横ばいである）
- ×：悪化している（目標とは逆に後退している）
- ：評価なし（数値の把握が困難などの理由で評価できない）

## 評価判定結果

分野	評価項目数	評価判定区分				
		◎	○	△	×	—
栄養・食生活	8		2		6	
歯・口腔の健康	6		2			4
身体活動・運動	14	1		4	9	
喫煙・飲酒	7		3	3	1	
こころの健康	2	1		1		
がん（悪性新生物）	13	2	3	8		
循環器疾患・糖尿病	7	1	2	1	3	
健康を支える地域づくり	2	1		1		
評価合計 （割合）	59	6 (10.2%)	12 (20.3%)	18 (30.5%)	19 (32.2%)	4 (6.8%)

・目標項目のうち、すでに目標を達成しているもの、目標には達していないものの改善傾向の項目を合わせると18項目あり、全体の30.5%を占めています。目標に向けて推移しているものの、横ばいの項目が18項目（全体の30.5%）、悪化している項目は19項目（全体の32.2%）であり、後期でのさらなる取組が求められます。

図1 分野別 評価区分



### 3 分野別の評価

#### (1) 栄養・食生活

##### 取組方針

望ましい食生活のリズムと適正な量やバランスのとれた食事の実践を目指します。

##### 【これまでの取組】

- ・平成28（2016）、29（2017）年度は、肥満予防を重点とした取組を行いました。母子保健事業やイベントでは、食生活リズムを整えることの重要性や1日の食事量の目安などを啓発し、子どもの頃からの肥満予防、健康的な食習慣の定着につなげました。健康増進事業では、適正体重の算出や個人の活動量に見合った1日の食事量（摂取エネルギー量）の算出、試食提供などを取り入れながら、バランスのよい食事や適正体重の重要性について啓発を行いました。
- ・平成30（2018）年度からは、肥満、糖尿病予防と関連づけながら甘味飲料のとり過ぎ予防の啓発を重点とした取組を行いました。特定健診、イベント、各事業での媒体展示、保育園児や小学生とその保護者を対象とした体験型の講座を開催しました。また、事業所において出前講座を開催し、青壮年期への働きかけを強化しました。

##### 【目標項目の達成状況】

###### ◆適正体重の人の増加

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
保育園（幼児）の肥満者 (肥満度15%以上)の割合	6.1%	4.6%	4.26%	○	新潟県小児肥満等 発育調査報告書
小学5年生の肥満者 (肥満度20%以上)の割合	8.72%	9.61%	7% (H29)	×	柏崎市教育委員会 健康診断結果集計表
20～69歳男性の肥満者 (BMI25以上)の割合	27.5%	30.2%	24%	×	柏崎市一般・特定健康 診査結果
40～69歳女性の肥満者 (BMI25以上)の割合	21.3%	21.9%	18%	×	柏崎市特定健康診査 結果
20歳代女性のやせの者 (BMI18.5未満)の割合	30.4%	20.7%	20%	○	柏崎市一般・特定健康 診査結果

###### ◆週3回以上朝食を抜く人の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
20～39歳	16.5%	19.7%	15%	×	柏崎市一般健康診査 質問票

###### ◆毎日、朝食を食べる人の増加

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
小学校6年生	93.3%	90.7%	98%	×	全国学力・学習状況 調査
中学校3年生	89.3%	86.2%	97%	×	

## 【目標項目の評価】

- ・保育園の肥満者については、母子保健事業等での啓発、保育園での食育活動や保護者への情報発信などの取組から改善傾向にあります。
- ・小学5年生、20～69歳男性、40～69歳女性の肥満者については、悪化の傾向です。これまで肥満予防を重点とした取組を行い、特定健診後の結果説明会、特定保健指導等で啓発を行っていますが、改善には至っていません。
- ・朝食については、小中学校での取組や健康増進事業、イベント等で啓発してきましたが、いずれの年代も悪化しています。

## (2) 歯・口腔の健康

### 取組方針

歯や口腔の健康を保つための生活習慣や食習慣を身につけるとともに、かかりつけ歯科医を持ち、定期的に受診することを目指します。

### 【これまでの取組】

- ・子ども達のむし歯は年々減少傾向にありましたが、県内ではむし歯が多い地域であったことから、平成27（2015）年度よりフッ化物洗口検討会を立ち上げ、フッ化物洗口の推進に取り組みました。市民講演会や保護者説明会、アンケート調査を行い、平成29（2017）年度から一部を除く保育園と小学校、中学校におけるフッ化物洗口を開始し、歯質の強化によるむし歯予防を行いました。併せて、3歳児健診におけるフッ化物歯面塗布を開始しました。
- ・定期的な歯科健診を受診しやすい環境を整えるため「歯周病検診（口腔健診）」について、事業の拡大を行いました。青年期への啓発を積極的に行い、40歳から80歳としていた対象を、令和元（2019）年度からは20歳から80歳に拡大し、より若い世代からも受診していただけるようにしました。さらに、令和2（2020）年度からは、節目年齢（20歳・30歳・40歳・50歳・60歳）の方を対象に無料クーポンを配布することとし、受診への更なるきっかけづくりを行いました。

### 【目標項目の達成状況】

#### ◆乳幼児・学齢期のう蝕のない者の増加

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
3歳児でう蝕のない児の割合	85.5%	89.8%	90% (H29)	○	母子保健事業統計
12歳児でう蝕のない子の割合	70.3%	72.8%	73% (H29)	○	柏崎市教育委員会 健康診断結果集計表

#### ◆過去1年間に歯科健康診査を受診した者の割合の増加

項目	基準値 (H23)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
20～64歳	39.9%	-	65% (H29)	評価 なし	柏崎市歯科保健計画 アンケート
65～84歳	58.2%	-	65% (H29)	評価 なし	

### ◆歯の喪失防止

項目	基準値 (H23)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
60歳で24本以上、自分の歯を持つ人の割合（55～64歳）	80.1%	-	増加 (H29)	評価 なし	柏崎市歯科保健計画 アンケート
80歳で20本以上、自分の歯を持つ人の割合（75～84歳）	52.5%	-	増加 (H29)	評価 なし	

### 【目標項目の評価】

- ・う蝕に関しては、目標値には至らないものの、乳幼児期・学齢期では改善傾向が見られます。
- ・青壮年期の目標項目については、これまで市民アンケートの結果で評価を行い、市民アンケートを実施しない年には、モニタリング調査として、イベントや事業の中で「いい歯・食育アンケート」を実施し、参考値として進捗状況の確認をしていました。中間評価時には市民アンケートを行わないことから、評価が出来ないため、今後は毎年評価が出来るように、市で行っている歯周病検診の結果と問診票の数値に基準値を置き換えて評価を行っていきます。

## （3） 身体活動・運動

### 取組方針

からだを動かす楽しさ、大切さを知り、自分に合った身体活動、運動の習慣化を目指します。

### 【これまでの取組】

- ・ウォーキングの教室や運動相談を継続実施したほか、平成29（2017）年度からは、自宅でできる筋力トレーニングとしてメタボらず体操を作成し、教室を実施しました。また、この体操を地域や事業所での健康教育、健康診査結果説明会で普及を図りました。
- ・平成30（2018）年度に市内のウォーキングコースをまとめ、ホームページに公表しました。
- ・令和元（2019）年度には「コツコツ貯筋体操センター」を開設し、幅広い世代が気軽に運動できる場としました。

### 【目標項目の達成状況】

#### ◆1週間の総運動時間の増加（学校の体育の時間以外での運動やスポーツ）

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典	
小学5年生	男子	519分	523分	600分	△	文部科学省 全国体力・運動能力、 運動習慣等調査
	女子	310分	312分	350分	△	
中学2年生	男子	898分	774.7分	920分	×	
	女子	725分	623.5分	730分	×	



◆児童・生徒の体力合計点の向上

項目		基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
小学5年生	男子	56.3点	55.9点	増加	×	文部科学省 全国体力・運動能力、 運動習慣等調査
	女子	58.1点	57.4点		×	
中学2年生	男子	47.0点	43.9点	増加	×	
	女子	53.4点	53.7点		△	

◆定期的に運動をしている者の増加（1回30分以上の軽く汗をかく運動を、週2日以上、1年以上実施している者）

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
20～39歳	25.7%	16.2%	36%	×	柏崎市一般健康診査 質問票
40～64歳	38.0%	34.6%	48%	×	柏崎市特定健康診査 質問票
65～74歳	45.0%	44.5%	55%	△	

◆からだをこまめに動かしている者の増加（日常生活において、歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している者）

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
20～39歳	85.4%	75.1%	現状維持	×	柏崎市一般健康診査 質問票
40～64歳	83.9%	79.4%	94%	×	柏崎市特定健康診査 質問票
65～74歳	60.6%	71.0%	71%	◎	

【目標項目の評価】

- ・一週間の総運動時間は、小学生は現状維持、中学生は悪化しています。中学生の総運動時間の悪化は全国でも同様の傾向であり、平成30（2018）年にスポーツ庁から「運動部活動のあり方に関する総合的なガイドライン」が出たことによる部活動時間の見直しの影響が考えられます。
- ・体力テストの合計点は、中学女子が現状維持で、これ以外は悪化しています。
- ・成人の指標では、65～74歳で、「定期的に運動をしている者」は現状維持、「からだをこまめに動かしている者」は改善がみられました。しかし、青壮年期は仕事や家庭に忙しく、運動に時間を割くことが難しい人が多いと思われるため、20～64歳はいずれの指標も悪化となりました。工夫した働きかけが求められています。

## (4) 喫煙・飲酒

### 取組方針

「禁煙」や「適正飲酒」を実行し、たばこやアルコールによる健康被害の減少を目指します。

### 【これまでの取組】

- ・平成28（2016）、29（2017）年度は、未成年者や若い世代向けの啓発チラシを作成し、市内大学での研修の機会に配布しました。イベントなどでは、呼気中一酸化炭素濃度測定やアルコールパッチを通して、禁煙や適正飲酒の啓発に取り組みました。また、加熱式たばこの健康に与える影響や飲酒の適量について知識が不十分な実態も見られたため、啓発内容に取り入れました。
- ・平成30（2018）年度からは、青壮年期への取組の強化を重点とし、事業所向けの健康講座、新入社員への健康教育などの場を活用し、生活習慣病予防の切り口で啓発を行いました。アルコールに関してはメンタルヘルスとも関連が深いため、働き盛り世代を対象としたところの健康講座においても適量飲酒の周知啓発を行いました。
- ・令和元（2019）年度には健康増進法の改正にあわせて、受動喫煙対策の強化に向けての情報提供や啓発を重点的に実施しました。

### 【目標項目の達成状況】

#### ◆成人の喫煙率の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
総数	11.1%	10.6%	10%	△	柏崎市特定健康診査 質問票
男性	21.8%	20.3%	19.6%	○	
女性	3.6%	3.7%	3.2%	△	

#### ◆生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典	
生活習慣病のリスクを 高める量の飲酒者	男性	15.3%	14.1%	13%	○	柏崎市特定健康診査 質問票
	女性	7.3%	8.4%	6.2%	×	

#### ◆妊娠中の喫煙をなくす

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
妊娠中の喫煙率	2.5%	1.3%	0%	○	母子健康手帳交付時 アンケート

#### ◆妊娠中の飲酒をなくす

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
妊娠中の飲酒率	2.2%	2.1%	0%	△	母子健康手帳交付時 アンケート

#### 【目標項目の評価】

- ・成人の喫煙率は、経年でみると男性はやや改善傾向にあるものの、全体でみると横ばいの状況にあります。
- ・生活習慣病のリスクを高める量の飲酒者は、男性については改善傾向がみられますが、女性においては悪化傾向にあります。
- ・妊娠中の喫煙率は改善傾向にあり、妊娠期の喫煙が妊婦や胎児に与える影響についての啓発がすすんできたことが要因と考えられます。しかし、妊娠中の飲酒率とともに、目標の0%には至っていません。

## (5) こころの健康

#### 取組方針

- ・ストレスへの対応や良質な睡眠などのこころの健康づくりに努めます。
- ・こころの病気の予防、早期相談の大切さを意識し、自殺を減らします。

#### 【これまでの取組】

- ・平成28(2016)、29(2017)年度は、ハートスクラムかしわざきの活動を通して相談窓口カードを作成し相談窓口の周知を行いました。相談会やイベント、ゲートキーパー研修において、こころの健康に関する情報提供、自殺予防への関心を高め、こころの健康づくりに関する普及啓発に取り組みました。
- ・平成30(2018)、令和元(2019)年度は、青壮年期(特に30～50歳代)への働きかけの強化を重点とし、商工会議所や産業保健センターと情報共有を行い、企業向けの取組について協議しました。また、地域、企業への出前講座(ふれあい講座、からだスッキリ講座、企業向けゲートキーパー研修)を通して、自殺予防やこころの病気予防等こころの健康づくりに関する普及啓発を行いました。
- ・働き盛り世代を意識した取組としては、就労、生活、健康に関する市内の相談窓口のチラシを作成し、関係機関へ配布、活用を依頼しました。また、妊娠期、子育て期の保護者に対して、母子健康手帳交付時に産後うつパンフレットを配布しました。

#### 【目標項目の達成状況】

#### ◆人口10万人当たりの自殺者数(自殺死亡率)の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
自殺死亡率	22.8	19.1 (H30)	19.3	◎	人口動態統計

◆睡眠で休養が取れている人の増加

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
睡眠で休養がとれている人の割合	80.9%	80.4%	85%	△	柏崎市特定健康診査質問票

【目標項目の評価】

- ・自殺死亡率は減少していますが、社会経済状況の変化からその年により増減するため一喜一憂できない状況です。
- ・睡眠で休養が取れている人の割合については、横ばいが続いており、改善には至っていません。

## (6) がん（悪性新生物）

取組方針

がん予防のための生活習慣を実践するとともに、がん検診を定期的に受診することを目指します。

【これまでの取組】

- ・平成 28（2016）年度から健（検）診の受診希望調査として、市の健（検）診を受けない場合（職場の検診を受ける等の場合）にも、調査票を返送してもらうこととし、受診状況の確認を行いました。
- ・平成 28（2016）年度から、各世帯に「健（検）診日程表」を配付しました。また、64 歳以下の方は指定医療機関で特定・一般健診、大腸がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検診を受診可能に、平成 29（2017）年度からは、65 歳以上の方が同健（検）診を集団健診で受診可能に、75 歳以上の方は生活習慣病の服薬があっても集団健診で受診を可能にしました。
- ・平成 28（2016）年度から、乳がん検診の受診日指定検診を土曜日に設け、受診しやすい環境を整えました。また、平成 30（2018）年度からは、関係機関と連携し、協会けんぽ加入被扶養者の特定健診と市の乳がん検診を同時に受診できる体制を整えました。

【目標項目の達成状況】

◆がん検診受診率の向上（子宮頸がん 20 歳以上、他 40 歳以上上限なし）

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
胃がん	13.8%	15.0%	15%	◎	市がん検診
肺がん	45.3%	45.3%	47%	△	
大腸がん	22.8%	27.1%	25%	◎	
子宮頸がん	27.6%	24.5%	29%	△	
乳がん	30.9%	29.5%	32%	△	

◆精密検査受診率の向上（精密検査受診者／精密検査が必要となった者）

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
胃がん	96.7%	96.8%	100%	△	市がん検診
肺がん	91.9%	90.8%		△	
大腸がん	93.3%	87.7%		△	
子宮頸がん	93.1%	86.2%		△	
乳がん	96.9%	98.9%		△	

◆75歳未満のがん年齢調整死亡率の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
総数	82.3	76.8	73.2	○	新潟県福祉保健年報
男	109.5	101.0	97.4	○	
女	56.2	52.8	50.4	○	

【目標項目の評価】

- ・がん検診の周知のほか、がん検診を受けやすい体制整備を繰り返し行うことで、受診率が少しずつ向上し、胃がん検診、大腸がん検診の受診率は目標値を達成しています。
- ・精密検査が必要となった方に対しては、一定期間が経過しても受診が確認できない場合には、文書による受診照会や電話による受診勧奨を実施しており、年度によっては目標値を達成した検診もあります。

（7）循環器疾患・糖尿病

取組方針

健康診査を定期的に受診し、健康状態に応じた生活習慣の改善や治療により、循環器疾患・糖尿病・認知症の発症予防・重症化予防を目指します。

【これまでの取組】

- ・受診しやすい健診体制整備として、平成28（2016）年度に個別健診、平成29（2017）年度に集団健診の年齢制限を撤廃しました。対象者が受診会場を指定医療機関、または地区での集団健診を選択できるようになり、特定健診受診率の増加につながりました。
- ・平成29（2017）年度から、「糖尿病予防」を重点とした取組を行っています。健診結果説明会をはじめ、地区活動やイベント等において、血糖値を上げない食べ方や健診・定期受診の継続の大切さ、適切な血糖管理が高齢期の認知症予防にもつながることを啓発しました。
- ・特定健診結果で、血糖コントロール不良者が多いことから、平成30（2018）年度に保健師による医療機関訪問を行いました。糖尿病相談会のPRによって利用者増加につながり、糖尿病連携手帳を活用して主治医との連携を図りました。
- ・令和元（2019）年度は「柏崎市糖尿病性腎症重症化予防プログラム」の取組として、糖尿病未治療者及び治療中断者への特定健診・医療機関への受診勧奨を行いました。

・平成30（2018）年度、令和元（2019）年度は、青壮年期への働きかけの強化を重点として、事業所における出前講座を実施し、肥満や高血圧、高血糖など、生活習慣病予防のための生活改善について啓発しました。

### 【目標項目の達成状況】

#### ◆高血圧の改善

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
血圧 140/90mmHg 以上の者の割合	26.4%	25.1%	19.8%	○	柏崎市特定健康診査結果

#### ◆脂質異常症の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
LDL コレステロール 160mg/dl 以上の者の割合	7.1%	9.7%	6.5%	×	柏崎市特定健康診査結果

#### ◆糖尿病有病率の増加の抑制

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
HbA1c (NGSP) 6.5%以上の者の割合	9.9%	11.2%	9.9%	×	柏崎市特定健康診査結果

#### ◆合併症（糖尿病性腎症による年間新規透析導入者）の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
新規人工透析導入者数	9人	6人 (H30)	減少	◎	更生医療申請状況

#### ◆メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少	27.5%	31.4%	22.6%	×	柏崎市特定健康診査結果

#### ◆特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	出典
特定健康診査の実施率	48.9%	51.0% (H30)	60.0% (H29)	○	柏崎市特定健康診査結果
特定保健指導の終了率	50.9%	50.2% (H30)	60.0% (H29)	△	

## 【目標項目の評価】

- ・高血圧の有所見者割合は改善傾向ですが、脂質異常症・糖尿病有病者割合については、悪化傾向にあります。また、メタボリックシンドローム該当者・予備群該当者割合も悪化しています。
- ・男女別割合でみると、脂質異常症は女性が高く、糖尿病有病者は男性が高い傾向にあります。
- ・糖尿病性腎症による新規透析導入者数は減少しつつありますが、年間の新規導入者数は減少していません。また、平成30（2018）年度は後期高齢者が6割近くを占めています。
- ・特定健康診査実施率は微増している一方、特定保健指導終了率が伸び悩んでいます。

## （8）健康を支える地域づくり

### 取組方針

健康づくりの担い手となる人材や団体等の支えにより、地域や職域等での健康づくり活動の充実を目指します。

### 【これまでの取組】

- ・健康推進員協議会、食生活改善推進員協議会、高齢者運動サポーター協議会（以下三協議会）の役員と市の施策を共有し、各協議会活動の情報交換や、地区での連携した活動に生かすことを目的に、三協議会連絡会を毎年1回、継続実施しました。
- ・平成29（2017）年度と令和元（2019）年度には、健康づくりを担う地区組織等の庁内関係課情報交換会を実施しました。参集した組織・団体の担当課は、スポーツ振興課、介護高齢課、健康推進課で、健康づくりを担う団体の人材育成と協働について情報を共有しました。
- ・働く世代の健康づくりを推進するため、平成29（2017）年3月27日に協会けんぽ新潟支部と「健康づくりの推進に向けた包括的連携協定」を締結し、協力して被扶養者の各種健（検）診の受診促進に取り組んだほか、事業所や関係機関と連携して「からだスッキリ講座」や「健康づくり宣言事業」などの啓発事業に取り組みました。

### 【目標項目の達成状況】

#### ◆健康づくりを担う人材、団体数の増加

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	評価 区分	主管課	
健康づくりを担う 人材、団体数	健康推進員	387名	380名	増加	△	健康推進課
	食生活改善推進員	152名	125名			健康推進課
	高齢者運動サポーター	251名	287名			介護高齢課
	スポーツ推進委員	68名	67名			スポーツ振興課
	こころのゲートキーパー(基礎編)	2,761名	6,200名	◎	健康推進課	
認知症サポーター	6,425名	10,066名			介護高齢課	

※こころのゲートキーパーと認知症サポーターは累計

### 【目標項目の評価】

- ・健康推進員、食生活改善推進員、スポーツ推進委員の会員数は、横ばいか減少傾向がみられます。
- ・こころのゲートキーパー（基礎編）と認知症サポーターは、養成講座を継続して実施することにより、知識をもった市民が増えています。



## 第2章 市民の健康を取り巻く現状

### 1 市の概要

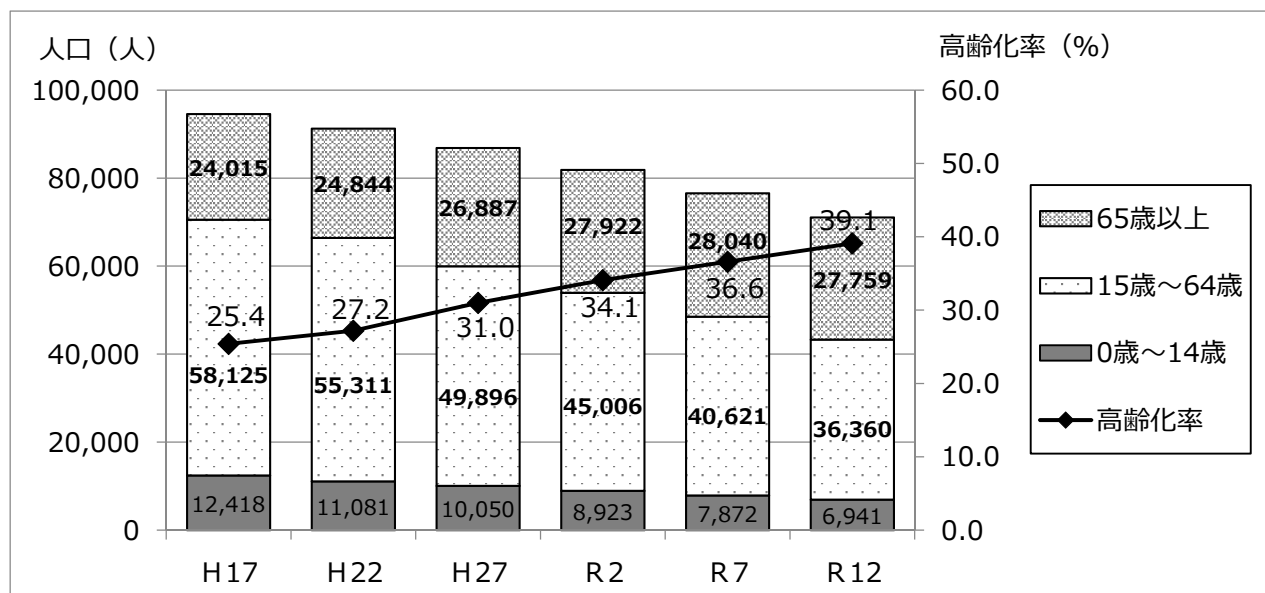
#### (1) 人口の推移と将来予測

国勢調査に基づく本市の人口の推移は、平成7（1995）年に10万人を超えましたが、これをピークに減少傾向が続いています。

将来人口は、現在の傾向が今後も同じように推移すると仮定した場合、令和12（2030）年の人口は71,060人、人口割合では年少人口は9.8%、老年人口は39.1%になると推計しています（図2）。

全国的に人口が減少し、少子高齢化が進んでいますが、本市においても同様であることを示しています。

図2 年齢区分別人口割合の推移と予測



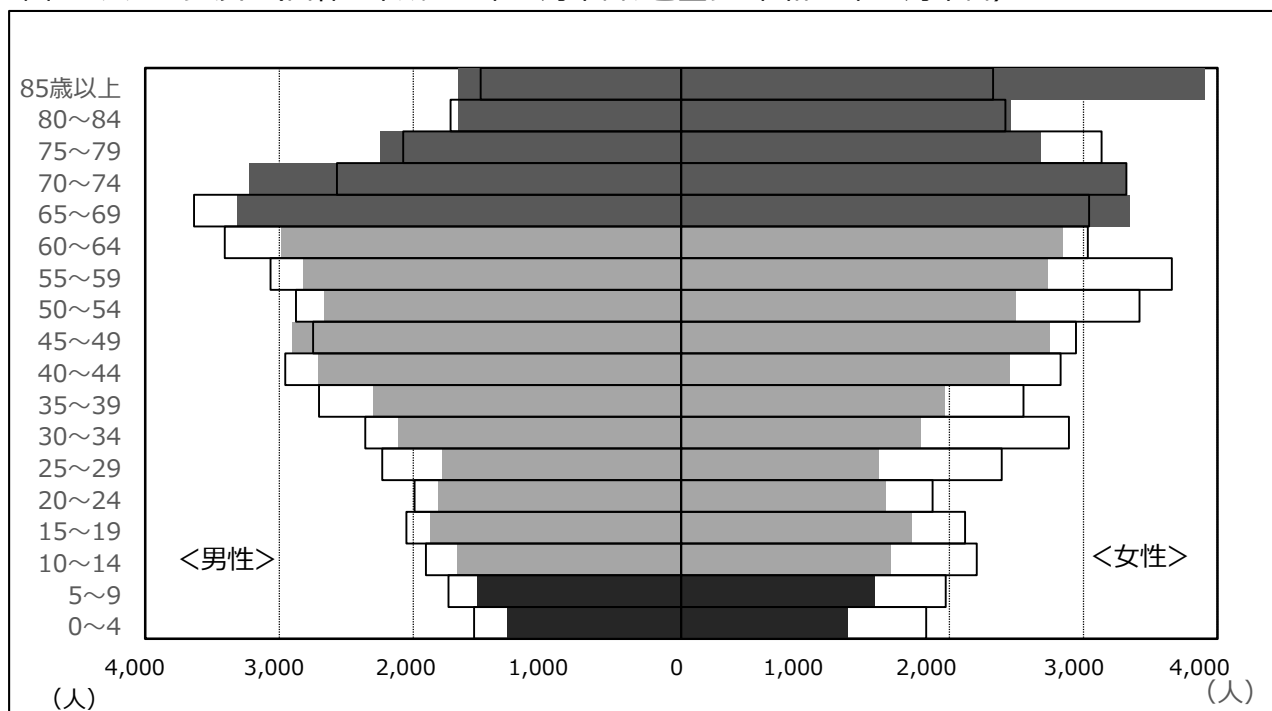
※平成17年・22年・27年は10月1日現在の国勢調査人口、令和2年以降は、柏崎市の推計です。

※年齢別人口は、3つに区分されます。年少人口は0～14歳、生産年齢人口は15歳～64歳、老年人口は65歳以上となります。

## (2) 人口ピラミッド

令和2（2020）年の人口ピラミッドをみると、人口が最も多いのは65～69歳となっています。人口構成は平成27（2015）年と比べてもより一層、少子高齢化の進行を映し出し、“高年齢構造”となっていることが表れています（図3）。

図3 人口ピラミッド（白枠は平成27年9月末日、色塗りは令和2年3月末日）

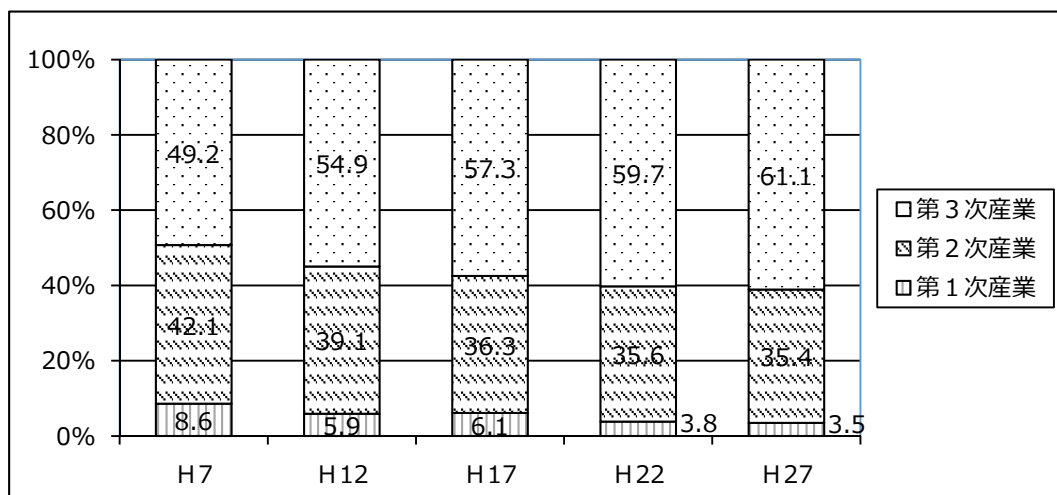


住民基本台帳

## (3) 産業別就業人口

平成27（2015）年の本市の就業人口は41,479人となり、減少傾向にあります。全就業者に占める割合をみると、第3次産業が増加傾向にあり、最も就業人口が多い産業となっています（図4）。第2次産業は減少傾向にありますが、産業大分類別に見ると製造業が全就業者の22.9%と本市の就業人口の中で、大きな割合を占めています。

図4 産業別就業人口構成割合の推移



国勢調査

## 2 健康に関する概況（健康特性）

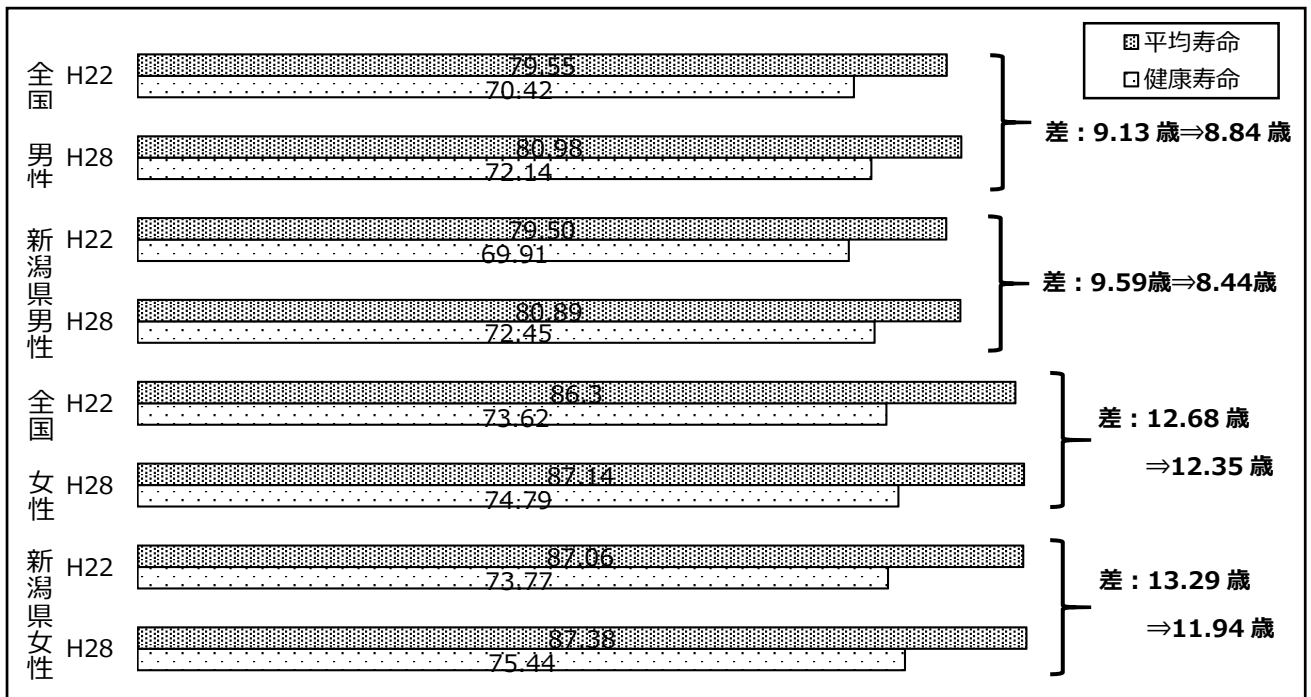
### (1) 平均寿命・健康寿命

平均寿命が長くても健康寿命が短ければ、要介護や入院などで行動が制限されたり、そのための費用が掛かったりすることがあります。

平成28（2016）年の新潟県の健康寿命は、男性72.45歳、女性75.44歳となっています。平均寿命と健康寿命との差は、男性8.44歳、女性11.94歳と全国と比べて短くなっています（図5）。

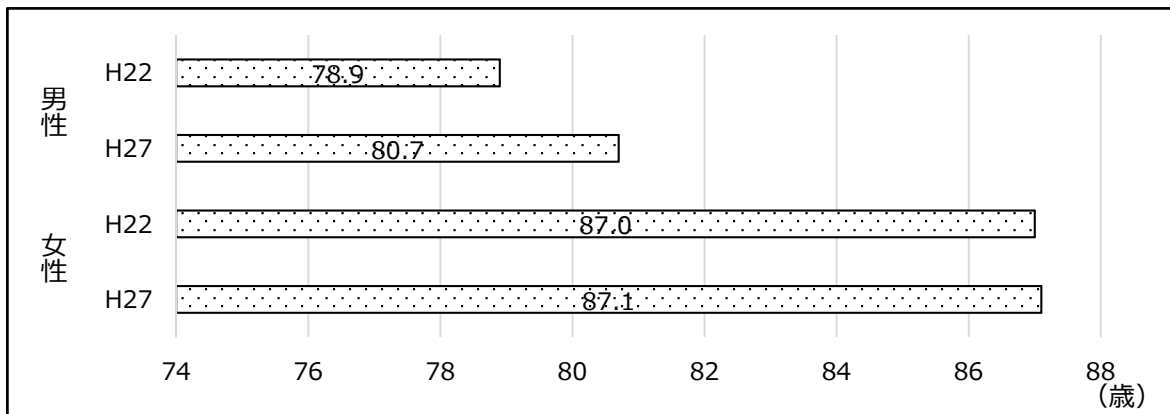
柏崎市の平均寿命は、平成27（2015）年は男性80.7歳、女性87.1歳となり、平成22（2010）年と比べ男女とも長くなっています（図6）。

図5 平均寿命と健康寿命の差（平成22年と平成28年の推移）



\*平均寿命：全国 平成22年完全生命表、平成28年簡易生命表、新潟県 簡易生命表  
健康寿命：健康日本21（第二次）推進専門委員会資料（厚生労働省）

図6 柏崎市の平均寿命



\*平均寿命：市町村別生命表（厚生労働省）

## 柏崎市の健康寿命は？

健康日本 21（第二次）において、健康寿命は国民生活基礎調査をもとに算出されています。

国民生活基礎調査は、全国の中から無作為抽出した地区の全世帯及び世帯員に行うもので、市町村の単位では、調査数の問題などから、健康寿命が算出できません。代替方法として、介護保険の要介護度をもとに算出する方法も示されていますが、国・県の公表値との比較ができないため、表示しておりません。

## (2) 出生数、死亡数の推移

出生数と死亡数の推移をみると、出生数よりも死亡数が2倍近く多い状況が続いています（図7）。

出生率は減少傾向、死亡率は増加傾向にあります（図8）。

図7 出生数と出生率（人口千対）の推移

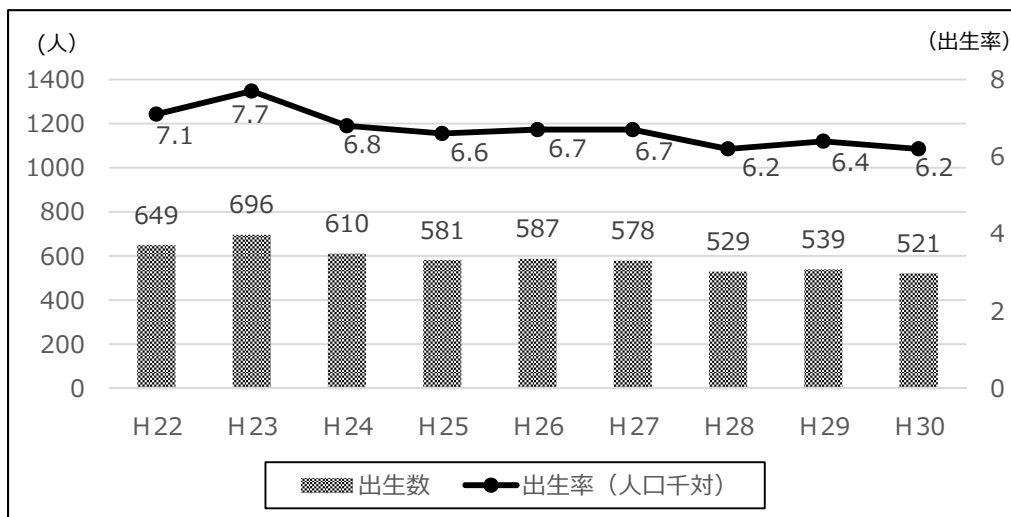
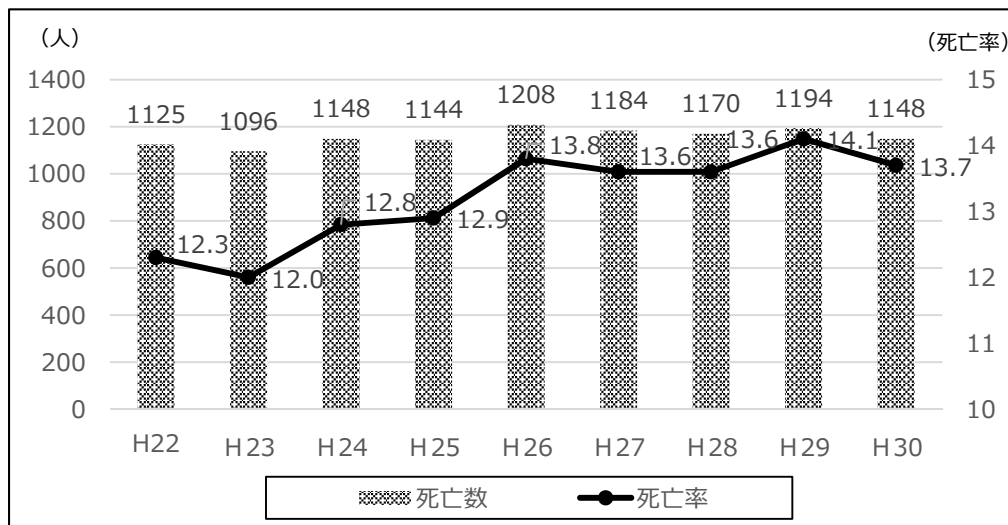


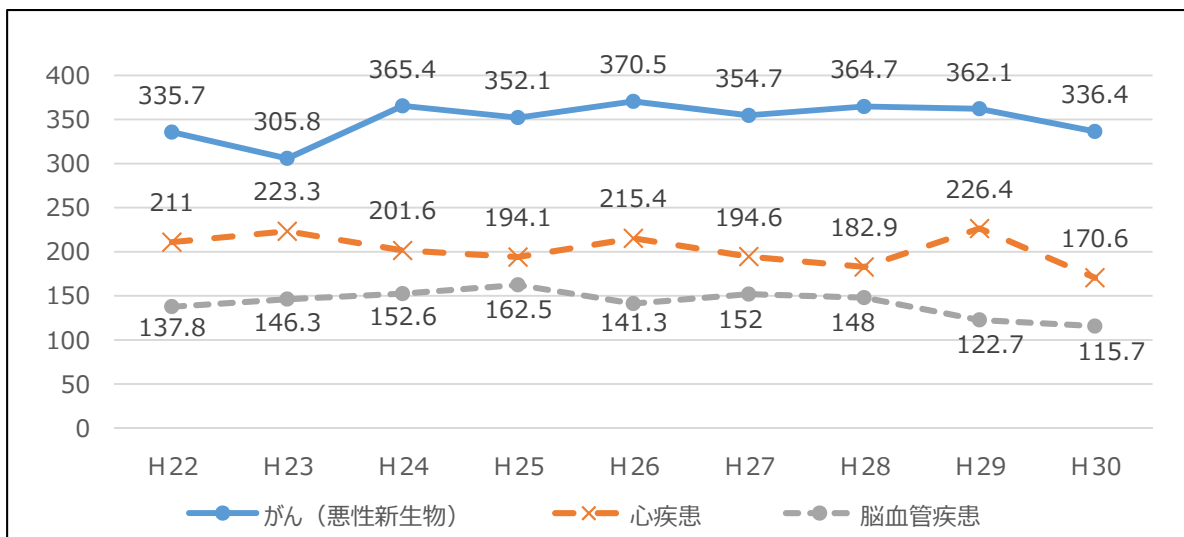
図8 死亡数と死亡率（人口千対）の推移



### (3) 主要3大死因と年代別主要死因の状況

主な3大死因の死亡率をみると、がんの死亡率が最も高い状況が続いています(図9・表1)。年代別死亡の状況では、20歳から39歳は自殺、40歳以上はがんが一位を占めています(表2)。

図9 柏崎市三大死因の死亡率の推移(人口10万対)



新潟県福祉保健年報

表1 柏崎市三大死因の死亡率(国・新潟県との比較 平成30(2018)年)

	柏崎市	新潟県	国
がん(悪性新生物)	336.4	351.5	300.7
心疾患(高血圧を除く)	170.6	193.2	167.6
脳血管疾患	115.7	131.8	87.1

新潟県福祉保健年報、人口動態統計

表2 柏崎保健所管内 年代別の死因順位(平成25(2012)年~平成30(2018)年)

	20~39歳	40~64歳	65~74歳	75歳以上
第1位	自殺	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物
第2位	悪性新生物	脳血管疾患	心疾患(高血圧を除く)	心疾患(高血圧を除く)
第3位	心疾患(高血圧を除く) 脳血管疾患	心疾患(高血圧を除く)	脳血管疾患	脳血管疾患

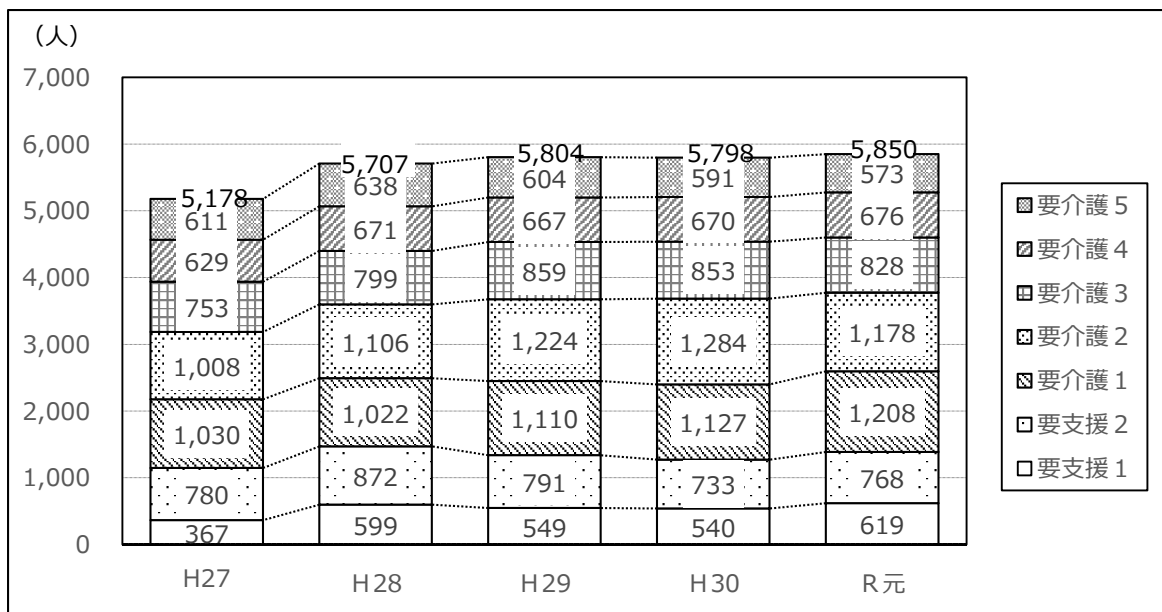
\* 柏崎保健所管内(柏崎市、刈羽村)

新潟県福祉保健年報

#### (4) 介護保険 要介護（要支援）認定者の状況

介護保険の認定者数は増加傾向にあります。介護度別にみると要介護1、要介護2の占める割合が高い状況です。一方で、重度の要介護4、要介護5の占める割合は減少傾向にあります（図10）。

図10 柏崎市要介護（要支援）認定者数の推移



介護保険事業状況報告月報（各年9月分）

#### (5) 国民健康保険医療費の状況

国民健康保険医療費総額に対する疾病別医療費の割合は、生活習慣病関係（循環器系疾患、がん、内分泌、栄養及び代謝性疾患、腎尿路生殖器系疾患）が47.3%を占めています（表3）。

平成30（2018）年度1人あたり費用額は358,955円で県内市町村平均329,979円を上回っており、県内20市中、高い方から4番目です。特に県内市町村平均と比べ、入院の1人あたり費用額が高い傾向があります。

表3 国民健康保険医療費総額に対する疾病別医療費の割合

	H26年度年間分	H30年度年間分		
新生物	41.5%	47.3%		
循環器系の疾患（高血圧性疾患、心疾患、脳梗塞等）			15.9%	15.4%
内分泌、栄養及び代謝疾患（糖尿病等）			12.4%	15.7%
腎尿路生殖器系の疾患（腎不全、糸球体疾患等）			7.8%	9.5%
消化器系の疾患（歯の疾患、胃・十二指腸の疾患等）	5.4%	6.7%		
精神及び行動の障害	12.5%	6%		
神経系の疾患	15.9%	9.6%		
筋骨格系及び結合組織の疾患	9.0%	8.7%		
その他	5.0%	6.8%		
	16.1%	21.6%		

新潟県国民健康保険団体連合会 疾病分類別統計

(6) 国民健康保険特定健康診査有所見者の状況

平成30(2018)年度特定健康診査の有所見者割合をみると、平成25(2013)年度と比べ、収縮期血圧は有所見者割合が低くなっているものの、腰囲や血糖(HbA1c)、脂質(中性脂肪、LDLコレステロール)の項目において有所見者割合が高くなっています。有所見者割合が半数を超える項目もあり、複数の有所見を持つ人が多い状況もみられます(図11・図12)。

図11 国民健康保険特定健康診査結果有所見者(保健指導判定値以上)の割合(40~74歳 男性)

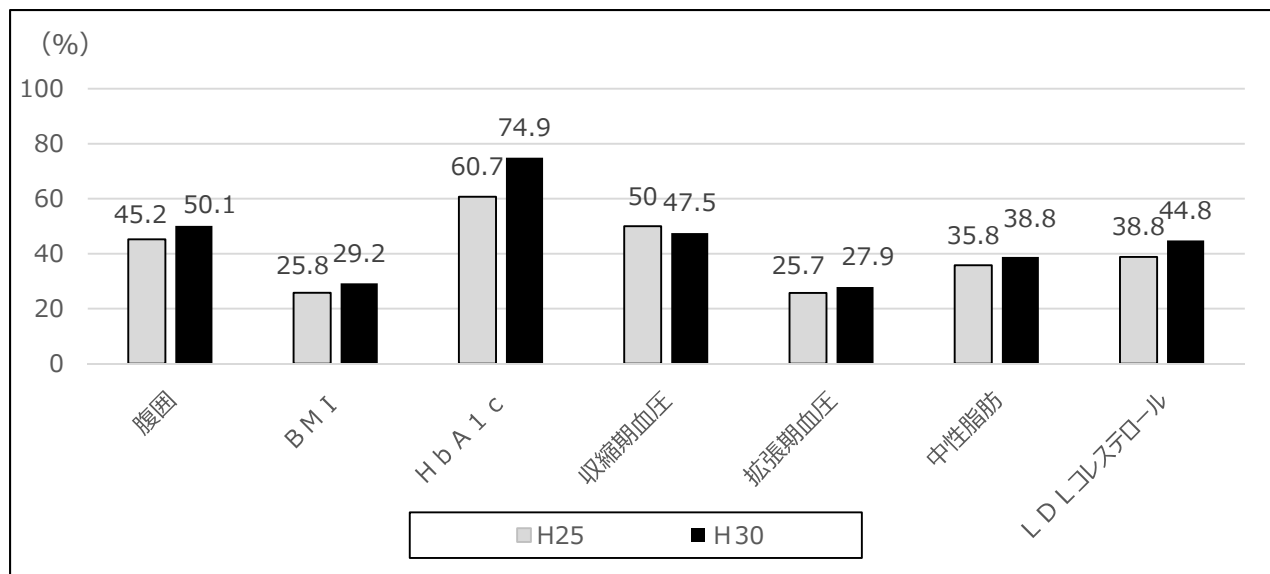
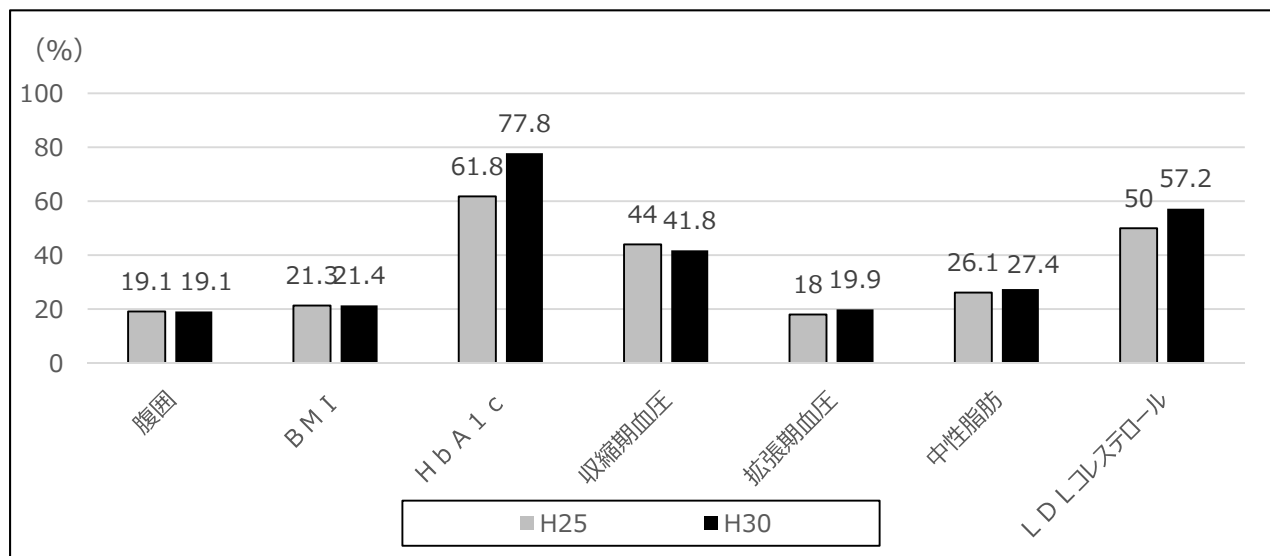


図12 国民健康保険特定健康診査結果有所見者(保健指導判定値以上)の割合(40~74歳 女性)



新潟県国民健康保険団体連合会資料

## 第3章 今後の取組

### 1 計画全体の方向性

前期から引き続き、市の健康課題である「糖尿病」については、取組を強化し、各分野が協力して施策を推進していきます。また、一人ひとりが健康づくりの実践者となるよう、特に青壮年期（働き盛り世代）に対する行動変容につながる取組を行っていきます。

後期では〇〇に取り組んでいきます。

また、今後は中間評価の結果を市民や健康づくりに関わる関係機関や団体等と共有し、目標値の改善に向けて推進していきます。

目標項目を達成しなかった項目については、今後も取組を継続していきます。目標値を達成した項目については、見直しを行い、成果を適切に評価していくためにも、各分野で必要に応じて目標項目・目標値の修正を行っています。（各分野参照）

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大により、本市においても健康づくり活動の制限等による市民の生活習慣の変化が生じ、健康への影響が心配されています。新しい生活様式を取り入れながらの健康づくりの取組を工夫しすすめていく必要があります。

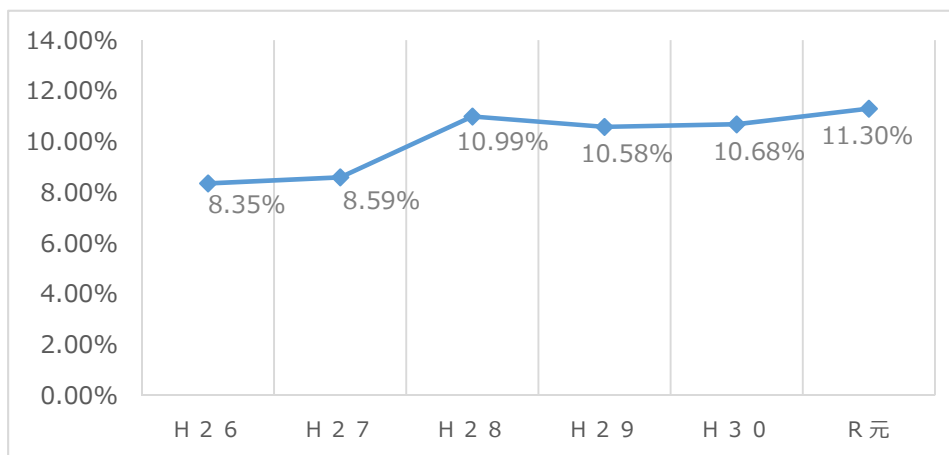
### 2 分野別の取組

#### （1）栄養・食生活

##### 【今後の課題と方向性】

- ・肥満を予防するために、朝食摂取やバランスの良い食事の啓発を継続していきます。実際に実践につながるような啓発内容を検討し、正しい生活リズムの定着や食事の適量摂取に向けて、家庭全体での取組をすすめていく必要があります（図 13）。特に20～69歳男性の肥満は、年々増加していることから、引き続き青壮年期の働きかけを強化していきます（図 14）。
- ・今後も柏崎市第3次食育推進計画と連動して、食を通じた生涯にわたる健康づくりの取組を行います。

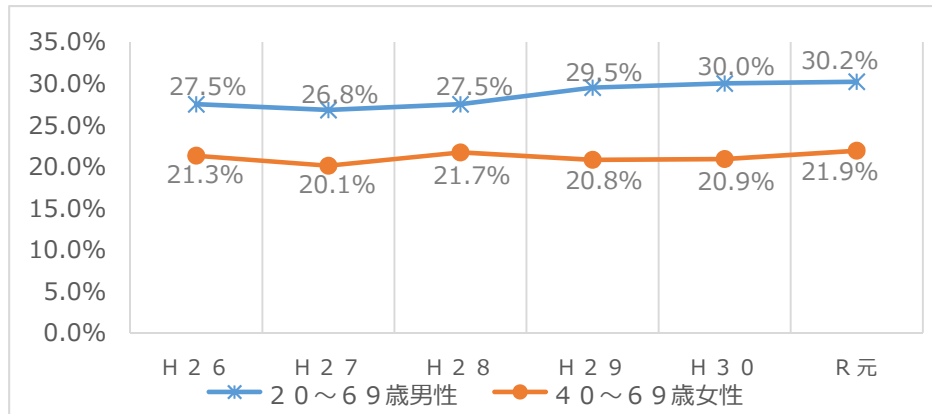
図 13 小学6年生の肥満者の割合



柏崎市教育委員会 健康診断結果集計表



図 14 肥満者（BMI 25 以上）の割合



柏崎市一般・特定健康診査結果

【目標項目と目標値】

◆適正体重の人の増加

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
保育園の肥満者の割合 (肥満度 15%以上)	6.1%	4.6%	4.26%	新潟県小児肥満等 発育調査報告書	
小学6年生の肥満者の割合 (肥満度 20%以上)	8.35%	11.3%	7%	柏崎市教育委員会 健康診断結果集計表	※1
20～69歳男性の肥満者の割合 (BMI25以上)	27.5%	30.2%	24%	柏崎市一般・特定健康 診査結果	
40～69歳女性の肥満者の割合 (BMI25以上)	21.3%	21.9%	18%	柏崎市特定健康診査 結果	
20歳代女性のやせの者の割合 (BMI18.5未満)	30.4%	20.7%	20%	柏崎市一般健康診査 結果	

※1 目標項目が、柏崎市第2次食育推進計画（平成25（2013）年度～平成29（2017）年度）に沿った項目であったため、柏崎市第3次食育推進計画（平成30（2018）年度～令和7（2025）年度）に合わせ、目標項目を「小学6年生の肥満者の割合」に変更する。

◆週3回以上朝食を抜く人の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
20～39歳	16.5%	19.7%	15%	柏崎市一般健康診査 質問票	

◆朝食を欠食する人の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
小学校6年生	2.5% (H28)	2.5%	2%	全国学力・学習状況 調査	※2
中学校3年生	4.9% (H28)	3.6%	3%		

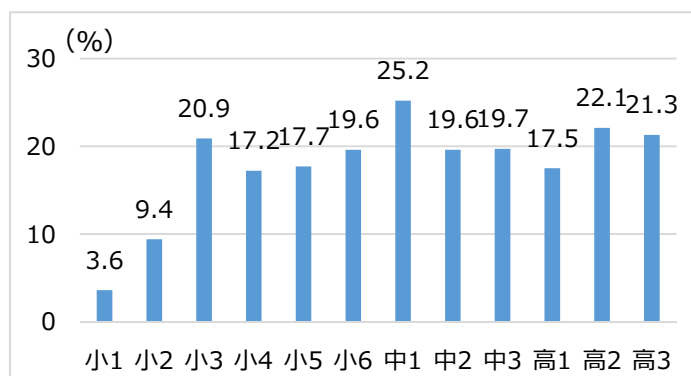
※2 柏崎市第3次食育推進計画と連動して取組を進めるため、目標項目を柏崎市第3次食育推進計画に合わせ、「朝食を欠食する人の減少」に変更する。

## (2) 歯・口腔の健康

### 【今後の課題と方向性】

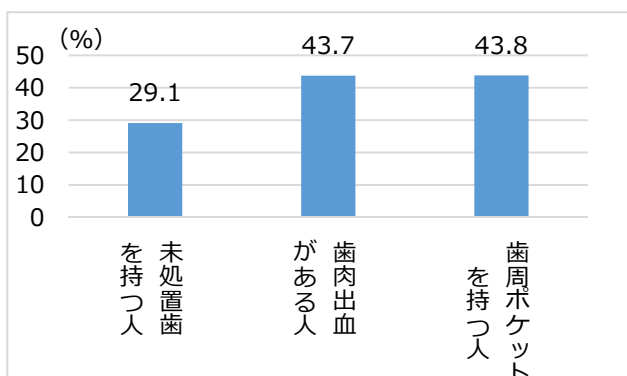
- ・むし歯に関して、乳幼児期・学齢期は改善傾向ですが、中にはむし歯が多発している子も見られ、健康格差が生じていると思われます。青壮年期でも、治療が必要なむし歯を持っている人が3割います。むし歯の多くは、食習慣や生活習慣、家庭環境等が影響してくることから、他の事業と連携をして、全世代への啓発について、継続して取り組んでいきます。
- ・学齢期では、学年が上がるにつれて歯肉に所見を持つ子ども達が増加傾向にあります（図 15）。青壮年期でも、歯肉からの出血があったり、歯周ポケットを持つ人が半数近く見られます（図 16）。歯周病の予防については、日頃のケアに加えて専門的な指導や管理も必要なため、歯周病の正しい知識を普及していきます。特に、青年期では、自覚症状が少なく、受診につながりにくいことから、積極的な働きかけを行っていきます。
- ・「柏崎市第2次歯科保健計画」と連動して、生涯にわたる歯や口腔の健康づくりの取組を行います。

図 15 歯肉の状態 1（要観察）・2（要精検）の子の割合



令和元年度健康診断結果集計表

図 16 20歳～64歳 口腔内の状況



令和元年度歯周病検診結果

### 【目標項目と目標値】

#### ◆乳幼児・学齢期のう蝕のない者の増加

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
3歳児でう蝕のない児の割合	85.5%	89.8%	90%	母子保健事業統計	
12歳児でう蝕のない子の割合	70.3%	72.8%	81%	小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策	※3

※3 柏崎市第2次歯科保健計画と連動して取組を進めるため、目標値と出典を柏崎市第2次歯科保健計画に合わせ変更する。

#### ◆過去1年間に歯科健康診査を受診した者の割合の増加

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
20～64歳	39.4% (40～64歳)	36.1%	65%	歯周病検診 (口腔健診)	※4
65～80歳	46.2% (65～70歳)	63.9% (65～80歳)	65%	歯周病検診 (口腔健診)	

※4 これまでは市民アンケートの数字を基準値としていたが、毎年の評価で市民アンケートを実施しないことから、継続的に事業が行われている歯周病検診の結果で評価を行っていく。目標値は国と同様であることから、変更しない。

### ◆歯の喪失防止

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
60歳で24本以上、自分の歯を持つ人の割合（55～64歳）	90.0%	89.1%	増加	歯周病検診 (口腔健診)	※5
80歳で20本以上、自分の歯を持つ人の割合（75～80歳）	68.1% (75～80歳) (H27)	80.4% (75～80歳)	増加		

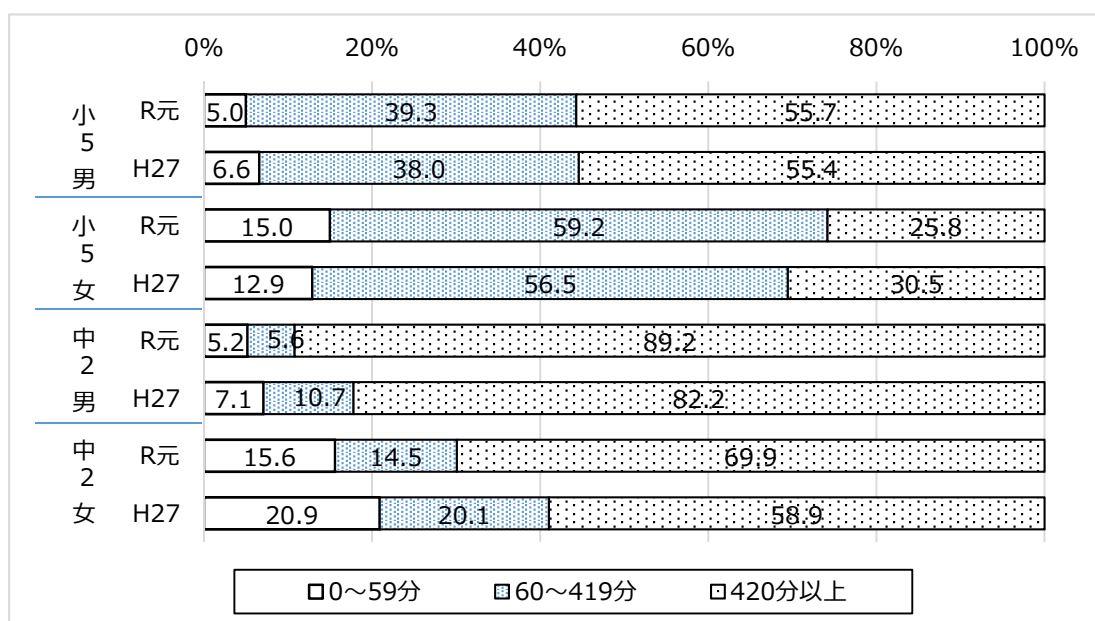
※5 これまでは市民アンケートの数字を基準値としていたが、主観的な数字であったこと、毎年の評価で市民アンケートを実施しないことから、継続的に事業が行われている歯周病検診の結果で評価を行っていく。

## (3) 身体活動・運動

### 【今後の課題と方向性】

- ・一週間の総運動時間が60分未満と少ない児童・生徒の割合は、小学5年生女子以外は減少していますが、今後も継続的な働きかけが必要です（図17）。
- ・65～74歳では、「からだをこまめに動かしている者（歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している者）」の割合が増加しました。一方で、40～64歳では、全国平均より高いものの、策定時より低下しているため、青壮年期への働きかけの強化が必要です。
- ・運動は生活習慣病予防と介護予防に重要な役割を果たします。運動に取り組む人を増やすため、からだを動かすこと（運動）の楽しさやその効果を、子どもの頃から継続して働きかけていきます。また、時間がなくても個々の生活の中でできる運動メニューや利用できる運動施設を周知し、全世代の人が、日常生活の中に運動を取り入れ、継続できるよう、働きかけをしていきます。

図17 一週間の総運動時間の比率の推移（柏崎市）



文部科学省 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

## 【目標項目と目標値】

### ◆1週間の総運動時間の増加

項目		基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
小学5年生	男子	519分	523分	600分	文部科学省 全国体力・運動能力、 運動習慣等調査	
	女子	310分	312分	350分		
中学2年生	男子	898分	774.7分	835分		※6
	女子	725分	623.5分	624分		

※6 平成30（2018）年にスポーツ庁から「運動部活動のあり方に関する総合的なガイドライン」が出たことによる部活動時間の見直しがあり、全国的に総運動時間が減少していることから目標値を変更する。男子は令和元（2019）年の全国平均値、女子は令和元（2019）年の全国平均値610分を上回っていることから、現状維持とする。

### ◆児童・生徒の体力合計点の向上

項目		基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
小学5年生	男子	56.3点	55.9点	増加	文部科学省 全国体力・運動能力、 運動習慣等調査	
	女子	58.1点	57.4点			
中学2年生	男子	47.0点	43.9点	増加		
	女子	53.4点	53.7点			

### ◆定期的に運動をしている人の増加（1日30分以上の軽く汗をかく運動を、週2回以上、1年以上実施している者）

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
20～39歳	25.7%	16.2%	36%	柏崎市一般健康診査 質問票	
40～64歳	38.0%	34.6%	48%	柏崎市特定健康診査 質問票	
65～74歳	45.0%	44.5%	55%		

### ◆からだをこまめに動かしている者の増加（日常生活において、歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している者）

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
20～39歳	85.4%	75.1%	現状維持	柏崎市一般健康診査 質問票	
40～64歳	83.9%	79.4%	94%	柏崎市特定健康診査 質問票	
65～74歳	60.6%	71.0%	71%		※7

※7 65歳～74歳の「からだをこまめに動かしている者」は目標値に達しているが、青壮年期の値が減少しており、複数年で経過を見る必要があるため、目標値は変更しない。

## (4) 喫煙・飲酒

### 【今後の課題と方向性】

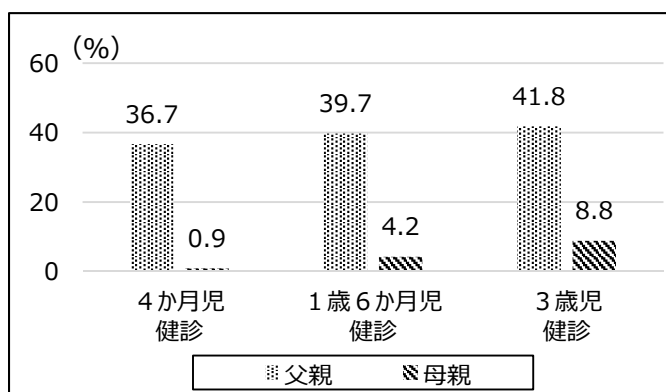
・喫煙については、健康増進法の改正により多くの施設で原則屋内禁煙となり、受動喫煙のない環境は広がつつあります。引き続き、市民全体への啓発を行うとともに、事業所向けの健康講座の機会などを生かして青壮年期への受動喫煙防止に向けた啓発に取り組みます。

また、特に子育て期の親の喫煙は、親自身の健康にも影響を与えるだけでなく、子どもへの受動喫煙が心配されます（図 18）。禁煙方法や受動喫煙の害についての情報提供や啓発に取り組みます。禁煙を考えている人に対しては、禁煙外来のある市内医療機関を紹介するなど禁煙に向けた支援を実施します。

・飲酒については、生活習慣病のリスクを高める飲酒量について知らない市民が多い現状があります。特に女性は、生活習慣病のリスクを高める量の飲酒者が増えている現状もあり課題となっています。アルコールの種類によってもアルコール度数が異なるため、自分の日常のアルコール摂取量が把握しにくい面もあります。イベントや健康講座などを通じて、適正飲酒量についての啓発に取り組みます。

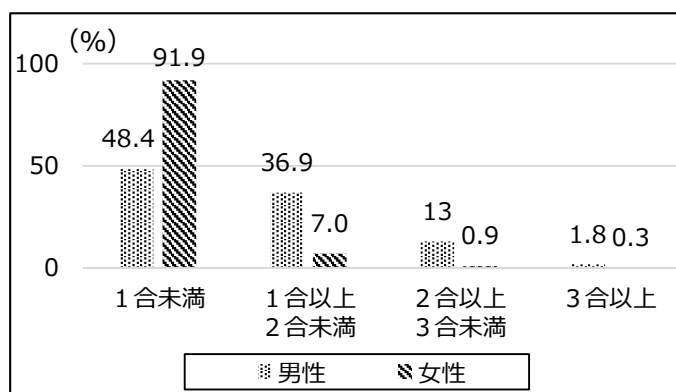
適量を超えた飲酒は、生活習慣病のリスクを高めるだけでなく、多量飲酒による様々な問題につながる場合もあります。健診後の保健指導の機会などを通じた支援を継続して実施します。

図 18 育児期間中の両親の喫煙率



令和元年度乳幼児健診アンケート結果

図 19 飲酒日の一日当たりの飲酒量



令和元年度柏崎市特定健康診査質問票

### 【目標項目と目標値】

#### ◆成人の喫煙率の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
総数	11.1%	10.6%	10%	柏崎市特定健康診査質問票	
男性	21.8%	20.3%	19.6%		
女性	3.6%	3.7%	3.2%		

#### ◆生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
生活習慣病のリスクを高める量の飲酒者	男性	15.3%	14.1%	13%	柏崎市特定健康診査質問票
	女性	7.3%	8.4%	6.2%	

◆妊娠中の喫煙をなくす

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
妊娠中の喫煙率	2.5%	1.3%	0%	母子健康手帳交付時 アンケート	

◆妊娠中の飲酒をなくす

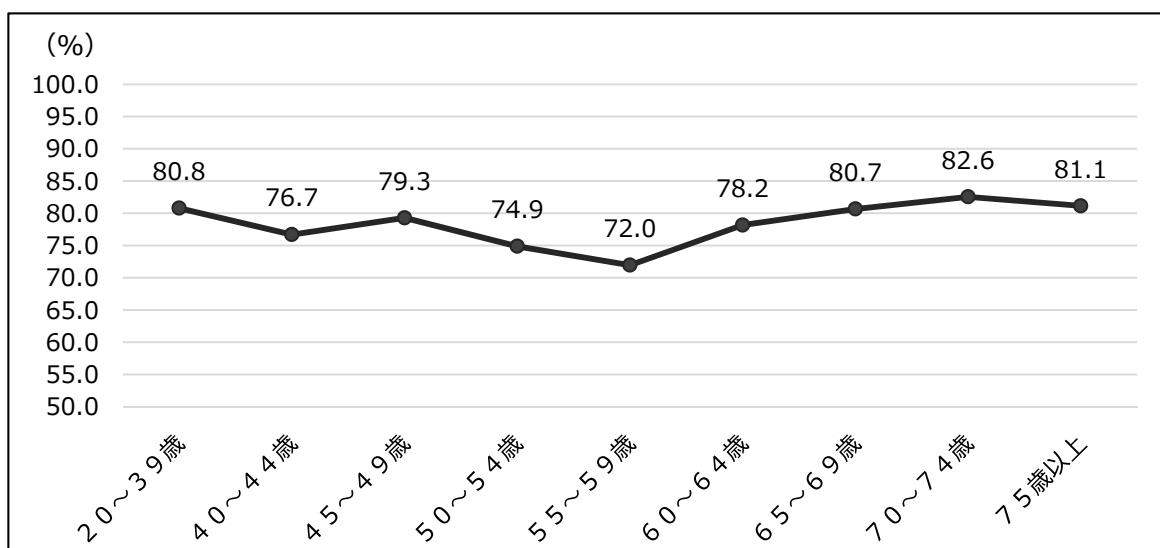
項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
妊娠中の飲酒率	2.2%	2.1%	0%	母子健康手帳交付時 アンケート	

## (5) こころの健康

### 【今後の課題と方向性】

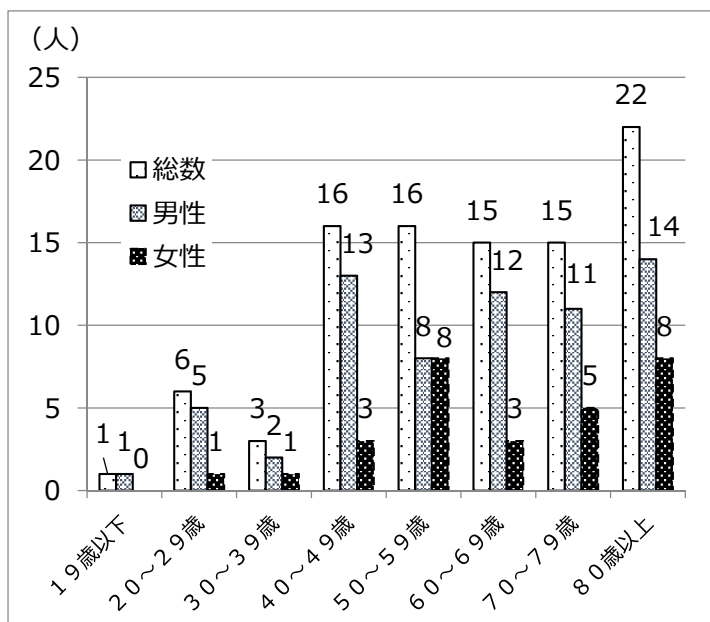
- ・睡眠で十分な休養を取れている方が増加することを目指し、市民向け出前講座（ふれあい講座、からだスッキリ講座等）や広報、ホームページを活用し、より良い睡眠のとり方に関する正しい知識の普及啓発、相談窓口の周知に取り組みます。年代別にみると、40～50歳代の睡眠で十分な休養が取れている人の割合が低い傾向にあることから、特に働き盛り世代への働きかけを行っていきます（図20）。
- ・自殺者数は全体に減っていますが、働き盛り世代は未だに多い現状にあります。職域や関係機関と連携し、こころの健康づくりや周囲の気づき・見守りの大切さなど意識の醸成に向け、啓発事業に取り組みます（図21・図22）。

図20 睡眠で休養が取れている人の割合



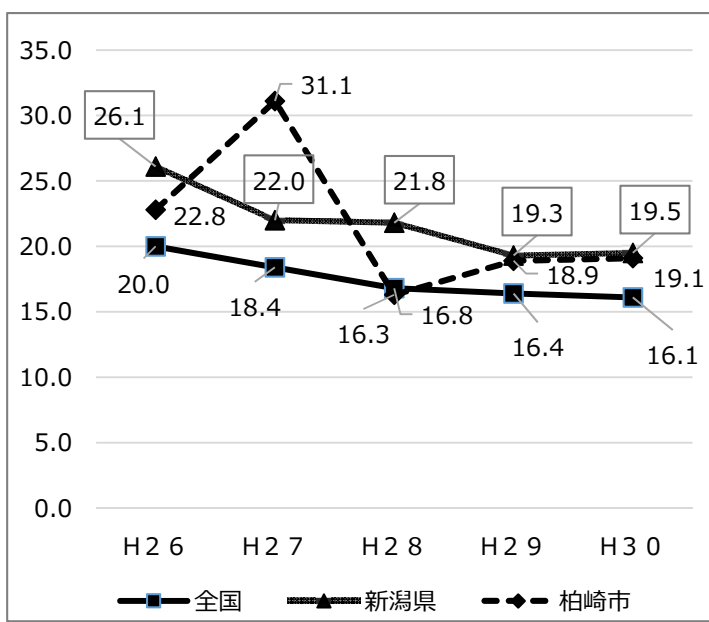
令和元年度柏崎市一般・特定健康診査質問票

図 21 柏崎市年代別自殺者数（H27～R元）



警視庁自殺統計

図 22 自殺死亡率の推移（H26～H30）



人口動態統計

【目標項目と目標値】

◆人口 10 万人当たりの自殺者数（自殺死亡率）の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
自殺死亡率	22.8	19.1 (H30)	19.3 以下	人口動態統計	※8

※8 自殺死亡率は目標値を達成しているが、柏崎市自殺対策行動計画改定版（平成 31（2019）年 3 月策定）と連動して取組を推進するため、目標値を 19.3 以下に変更する。

◆睡眠で休養が取れている人の増加

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
睡眠で休養がとれている人の割合	80.9%	80.4%	85%	柏崎市特定健康診査質問票	

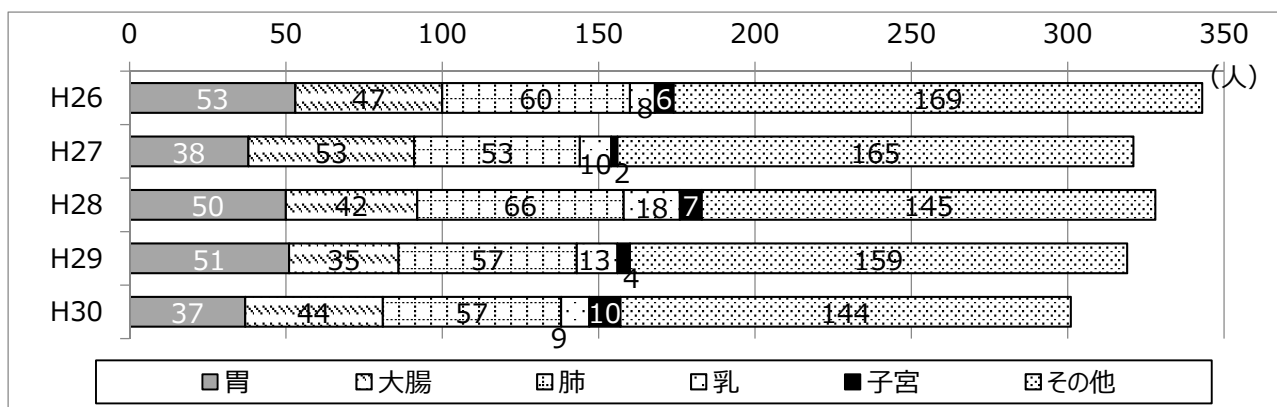
（6） がん（悪性新生物）

【今後の課題と方向性】

- ・現在、健（検）診調査票で把握した情報を活用して、未受診者への受診勧奨を効率的に実施しています。今後も市民の皆様へ調査票の提出について協力を呼びかけていくとともに、さらに調査票の集計・分析を行い、がん検診の受診率向上を図ります。
- ・がん検診で精密検査が必要となった方に対しては、必ず医療機関へ受診ができるよう、受診確認・勧奨を引き続き実施していきます。
- ・他のがん検診に比べて、子宮頸がん検診、乳がん検診の受診率が向上していないことから、女性や若い世代に情報が伝わるよう、ホームページ等を活用し、がん検診を受ける方法を分かりやすく周知します。

・今後も企業など、関係機関と連携し、がん検診を受けやすい体制を整えていくとともに、がん予防・がん検診に関する知識と情報を提供していきます。

図 23 柏崎保健所 管内主な部位別にみたがんによる死亡数



【目標項目と目標値】

◆がん検診受診率の向上（子宮頸がん20歳以上、他40歳以上上限なし）

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
胃がん	13.8%	15.0%	15%	市がん検診	※9
肺がん	45.3%	45.3%	47%		
大腸がん	22.8%	27.1%	25%		※9
子宮頸がん	27.6%	24.5%	29%		
乳がん	30.9%	29.5%	32%		

※9 目標値は達成しているが、年度により受診率の増減があり、複数年の経過を見ていく必要があるため、目標値は変更しない

◆精密検査受診率の向上（精密検査受診者／精密検査が必要となった者）

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
胃がん	96.7%	96.8%	100%	市がん検診	
肺がん	91.9%	90.8%			
大腸がん	93.3%	87.7%			
子宮頸がん	93.1%	86.2%			
乳がん	96.9%	98.9%			

◆75歳未満のがん年齢調整死亡率の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
総数	82.3	76.8	73.2	新潟県福祉保健年報	
男	109.5	101.0	97.4		
女	56.2	52.8	50.4		



## (7) 循環器疾患・糖尿病

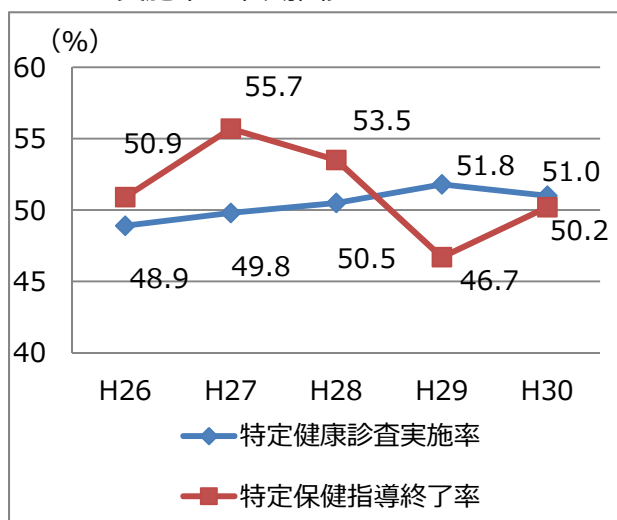
### 【今後の課題と方向性】

・特定健康診査実施率は以前よりも向上していますが、特に40・50歳代の実施率が伸び悩んでいます。未受診者への案内と無料健診となる節目年齢（40・50歳）対象者への受診勧奨を継続していきます。

・高血圧や糖尿病、脂質異常症の発症に関連するメタボリックシンドロームの改善が、脳血管疾患や虚血性心疾患を含む循環器疾患、人工透析への重症化予防につながります。特定保健指導会への参加勧奨を継続し、対象者の主体的な生活改善の行動を支援しながら、実施率の向上を目指します。また、ハイリスク対象者には、受診状況や生活改善を確認しながら医療機関へつなげていきます。

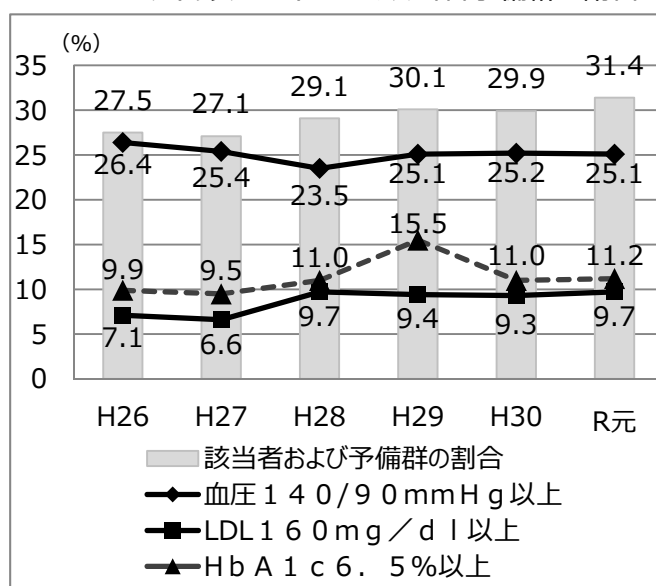
・糖尿病等の基礎疾患が要因となって、脳血管疾患等から要介護状態になる割合が高く、高齢者のQOLの低下や医療費・介護保険給付費の増大は大きな課題です。今後さらなる高齢化が予想され、職域と連携しながら青壮年期の生活習慣病予防啓発を継続します。また、青壮年期からの継続した高齢者の健康づくりに取り組み、血圧や血糖値の適切管理の大切さ等を啓発していきます。

図 24 柏崎市特定健康診査・特定保健指導実施率の年次推移



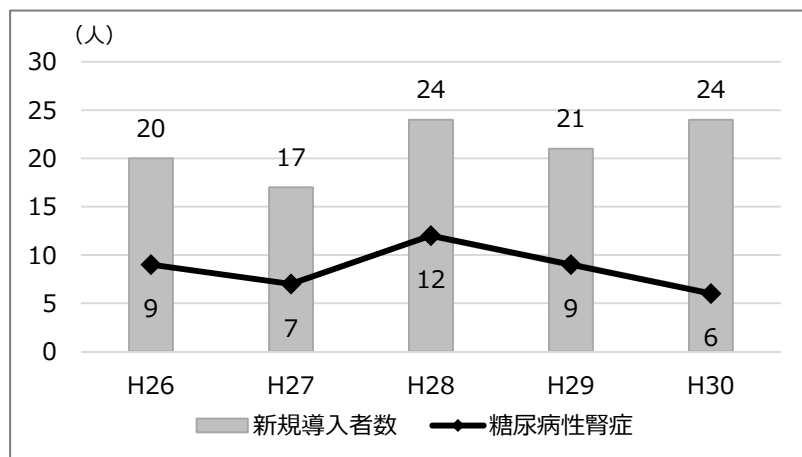
柏崎市特定健康診査結果

図 25 特定健康診査結果の有所見者及びメタボリックシンドローム該当者予備群の割合



柏崎市特定健康診査結果

図 26 新規人口透析導入者と糖尿病性腎症の推移



自立支援医療（更生医療）申請状況

【目標項目と目標値】

◆高血圧の改善

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
血圧 140/90mmHg 以上の者の割合	26.4%	25.1%	19.8%	柏崎市特定健康診査結果	

◆脂質異常症の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
LDL コレステロール 160mg/dl 以上の者の割合	7.1%	9.7%	6.5%	柏崎市特定健康診査結果	

◆糖尿病有病率者の増加の抑制

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
HbA1c (NGSP) 6.5%以上の者の割合	9.9%	11.2%	9.9%	柏崎市特定健康診査結果	

◆合併症（糖尿病性腎症による年間新規透析導入者）の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
新規人工透析導入者数	9人	6人 (H30)	減少	更生医療申請状況	

◆メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少	27.5%	31.4%	22.6%	柏崎市特定健康診査結果	

◆特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	出典	備考
特定健康診査の実施率	48.9%	51.0% (H30)	60.3%	柏崎市特定健康診査結果	※10
特定保健指導の終了率	50.9%	50.2% (H30)	60.0%		

※10 第3期特定健康診査等実施計画書（平成30（2018）年度～令和5（2023）年度）に沿った目標値に変更する。

## 8 健康を支える地域づくり

### 【今後の課題と方向性】

- ・推進員のなり手不足（人口減少、高齢化、過疎化）や地域住民のつながりの希薄化などの理由により、人材育成や活動の停滞が懸念されます。しかし、これまでも地域の实情に合った方法で健康づくりの普及啓発に貢献してきており、今後も、地域のソーシャル・キャピタルを活用し、住民による互助への支援を推進するために、人材育成や活動支援を継続していく必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染症による影響で、友人や近所の人と会う機会や社会参加活動の機会が減っています。今後は、「新しい生活様式」を取り入れながら、地域づくりの取組を検討していく必要があります。
- ・青壮年期の健康づくりについては、引き続き、職域と連携・協働しながら取り組んでいきます。

### 【目標項目と目標値】

#### ◆健康づくりを担う人材、団体数の増加（人口千対あたりの推進員人数）

項目	基準値 (H26)	現状値 (R元)	目標値 (R7)	主管課	備考
健康づくりを担う人材、団体数	健康推進員 4.43人(387名)	4.62人(380名)	維持	健康推進課	※11
	食生活改善推進員 1.74人(152名)	1.52人(125名)		健康推進課	
	高齢者運動サポーター 2.87人(251名)	3.49人(287名)		介護高齢課	
	スポーツ推進委員 0.78人(68名)	0.81人(67名)		スポーツ振興課	
こころのゲートキーパー(基礎編)	2,761名	6,200名	増加	健康推進課	※12
	認知症サポーター 6,425名	10,066名		介護高齢課	

※11 人口減少が進んできている現状から増加は困難であり、人口千対で人員を維持していくことを目標とする。

※12 経験者を増やしていくことが必要であるため、目標値は変更しない。

※こころのゲートキーパーと認知症サポーターは累計

## 3 計画の進捗管理と評価

目標の達成度と関係機関等の取組を把握し、健康づくり推進会議等において、本計画の進捗状況の管理・評価を引き続き実施していきます。また、必要に応じて見直しを行います。

計画の最終年度である令和7（2025）年度には、目標の達成度を検証・評価し、次期計画の策定を行います。